

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	きょうとふりつとばこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府	
27～31	① 学校名	京都府立鳥羽高等学校						
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計	1年 362人	2年 353人	
	362	353	351		1066	3年 351人		
⑥研究開発構想名	ソーシャル・イノベーションで挑むグローバル・リーダーの育成							
⑦研究開発の概要	リベラルアーツ教育を基軸に、国内外の学術機関や企業等と連携した鳥羽の学びネットワークを活用して、グローバル・イシューに挑む新しい価値創造を目指す課題研究「ソーシャル・イノベーション」により、価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力を備えたグローバル・リーダーを育成する教育システムを研究開発する。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p><目的></p> <p>未来を見すえた新たな価値を創り出す価値創造力、異文化コミュニケーションを通じて課題に取り組む協働力、困難な課題と向き合い解決する突破力、多様な価値観を尊重する寛容力、幅広い見識を持ち広い視野で社会を俯瞰する教養力を備え、持続可能な豊かな社会を創造することに貢献するグローバル・リーダーを育成する。</p> <p><目標></p> <p>① 京都や世界の智慧を多面的に考察し、再認識して新たな価値を創造し発信する。</p> <p>② 異なる文化背景を持つ人々と課題解決に向けて、主体的・協働的に取り組む。</p> <p>③ オープンエンドの問いを多角的にとらえ、解決の糸口を見いだす。</p> <p>④ 多文化社会において価値観の違いを理解し、共生できる能力を身につける。</p> <p>⑤ 地球規模で考え、行動するための基盤となる豊かな教養を身につける。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は明治33年に創立された旧制京都第二中学校の伝統を継承する普通科の公立高校であり、冷泉家時雨亭文庫常務理事冷泉貴実子氏による和歌の作成・披講の指導や、論理的思考力を育成する独自の思考力コンテストを実施している。また、SGHアソシエイト校として、グローバル人材育成をめざして、生徒の海外派遣及び他国からの高校生受入れや、積極的な社会参画を促すシティズンシップ教育を推進している。その一方で、武道・スポーツ活動が盛んで、健康・スポーツ領域に関する生徒の意識が高い。これらが、自律する人間を育成する「鳥羽式文武両道」として府民から高い評価を得ている。しかし、現状では、これらの取組は対象や活動規模が限定したものとなっている。これを克服し、より大きな視野で活躍するグローバル・リーダーの育成をめざし、次の仮説に基づく研究開発を行う。</p> <p>仮説1：総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」及び学校設定科目「グローバル・コミュニケーションⅠⅡⅢ」等は、課題の発見・分析能力、多文化協働による主体的な課題解決能力を高める手段として有効である。</p> <p>仮説2：京都府海外サテライト校への中期留学等の方策は、新しい視座と高い言語能力を確立する上で有効である。</p> <p>仮説3：鳥羽の学びネットワークを活用したリベラルアーツ教育は、広い視野でグローバル社会を俯瞰できる教養力を育成するために有効である。</p> <p>(3) 成果の普及</p>						

		<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・サミットを平成 29 年度より実施。英語による課題探究発表、論文集作成。 ・文部科学省 SGH ホームページ、本校ホームページ、京都府教育委員会主催「グローバルネットワーク京都交流会」にて発表。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容</p> <p>SGH アソシエイト校として、鳥羽の学びネットワークと連携・推進してきた多様で高度な教育活動を活用し、教科科目を体系化するリベラルアーツ教育を基軸とし、グローバル・コンピテンシーを高める教科横断的科目や、海外インターシップなどの戦略的手法による多様で実践的な学びを、総合的な学習の時間「イノベーション探究ⅠⅡⅢ」を核とする生徒の主体的な学びに一体化させつつ、目標を達成する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>＜実施方法＞</p> <p>1 年次：グローバル・コンピテンシーの基礎の習得 「イノベーション探究Ⅰ」における京都フィールドワーク（伝統・文化領域、健康・スポーツ領域）、京都や世界の智恵の再認識、生徒の研究課題発見。「グローバル・コミュニケーションⅠ」における発展的英語運用能力、「ソーシャル・インテリジェンス」における ICT 活用スキル並びに統計学等を用いた分析手法の習得。希望者対象の海外インターンシップ（ソウル・台湾・上海・シンガポール）。</p> <p>2 年次：批判的思考力と多文化対話力の獲得 「イノベーション探究Ⅱ」における多文化協働 PBL（シンガポール国立大学、海外パートナー高校）、海外フィールドワーク、生徒の研究課題の仮説検証。「グローバル・コミュニケーションⅡ」における批判的思考力及び多文化対話力の習得。「京都の風土・世界の風土」における文化の多様性と複合性の理解。京都府海外サテライト校への中期留学。シンガポール・マレーシアにおける海外研修。希望者対象の海外インターンシップ（ソウル・台湾・上海・シンガポール）。</p> <p>3 年次：グローバル・サミットにおける新たな価値提言 「イノベーション探究Ⅲ」における価値創造（地域研究領域）、鳥羽の学びネットワークと連携したグローバル・サミットにおける提言。「グローバル・コミュニケーションⅢ」における英語論文の作成及びプレゼンテーション。</p> <p>＜検証評価＞</p> <p>検証評価については、運営指導委員会並びに、SGU やグローバル企業などからなる鳥羽の学びネットワーク等から積極的に外部評価を受けることを予定している。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度より京都府海外サテライト校への中期留学を単位認定 ・「ソーシャル・インテリジェンス」による、「情報」の代替 ・「京都の風土・世界の風土」による、「地理歴史」の代替
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育課程の研究</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 海外帰国子女特別入学者選抜の継続実施</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑨ その他 特記事項</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・京都府教育委員会指定「グローバルネットワーク京都」幹事校

ふりがな	きょうとふりつとぼこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	京都府立鳥羽高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	972人
	SGH対象生徒以外:		125人	147人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 生徒が自主的・主体的に取り組めるような課題の意識付けを積極的に行い、90%以上の達成を目指す。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	324人
	SGH対象生徒以外:		6人	13人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 留学・海外研修ガイダンスを実施し、より多くの生徒が自主的に留学・海外研修に行く環境を整備する。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		18.9%	25.6%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 海外研修やSGU留学生等との協働学習を通して生徒の意識を高める。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	108人
	SGH対象生徒以外:		6人	17人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 参加大会を増やし、HENDA高校生英語ディベート大会やビジネスプラン・グランプリの入賞を目指す。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		0.4%	0.6%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英検など外部検定試験の受検を促しつつ、E-learningなど自主的に語学学習に取り組む環境を整備する。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	40%
	SGH対象生徒以外:		15%	16%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGUなどの大学と課題研究について定常的に連携し、キャリア教育に結びつけて学習意欲を喚起する。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	30人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外大学への進学を希望する生徒への進学体制を充実させ、30人を目標とする								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	95%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 高大連携によって自らが方向性を見つけ、それを課題研究に落とし込みながら大学の専攻分野につなげる。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	590人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: SGUと連携しながら卒業後の留学や海外研修を促す活動を実施し、合計590人を目標とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	13人	人	人	人	人	人	380人
	目標設定の考え方：28年度から2年生360人全員が海外で課題研究を行い、さらに20人が自主的に別の海外研修に参加する。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	0人	50人	人	人	人	人	人	400人
	目標設定の考え方：校外で行われる研修会を積極的に紹介し、その参加を促す環境作りを行う。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	0校	5校	校	校	校	校	校	20校
	目標設定の考え方：H28年度からは海外研修を実施し、海外大学や海外パートナー高校との連携をさらに深めていく。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0回	12回	回	回	回	回	回	300回
	目標設定の考え方：SGUとの高大連携をさらに推進し、大学教員、留学生やTAとの課題研究を行う体制を整備する。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0人	12回	回	回	回	回	回	30回
	目標設定の考え方：片岡製作所にて海外インターンシップを実施するなど、「鳥羽の学びネットワーク」との連携を拡充する。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	362人	362人	人	人	人	人	人	560人
	目標設定の考え方：現在の取組に加えて、The Global Enterprise Challengeなど国内外の公益性高い大会に出場する。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	8人	11人	人	人	人	人	人	30人
	目標設定の考え方：海外帰国子女特別入学者選抜を継続実施すると共に、京都府海外サテライト校から留学生を受け入れる。							
h	先進校としての研究発表回数							
	2回	6回	回	回	回	回	回	10回
	目標設定の考え方：SGH、SGU、運営指導委員、中学関係者、保護者、地域などに広く研究成果を発表する。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	○						○
	目標設定の考え方：26年度に外国語のホームページを整備した。国内外への成果普及を英語で継続的に行う。							
j	京都の伝統・文化をグローバル社会に普及することを目的とした国際交流に参加した人数							
	40人	365人	人	人	人	人	人	720人
	目標設定の考え方：冷泉家披露、茶道、華道などを通して海外パートナー校と交流し、京都の伝統・文化を世界に発信する。							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			1,080	1,080	1,080	1,080	1,080
SGH対象生徒数			120	240	600	840	1,080
SGH対象外生徒数			960	840	480	240	-